



かけはし

理念

すべては患者様と
地域社会のために

発行責任者 病院長 佐々木 順子

先生
おたずねします



冠動脈造影 検査について

〈回答者〉
循環器内科部長
前川 浩一



狭心症や心筋梗塞の原因は心臓の筋肉に酸素や栄養を供給している冠動脈の狭窄や閉塞が原因です。診断と治療には冠動脈の評価が欠かせません。当院ではCT、MRIおよび冠動脈造影検査を用いて冠動脈を評価しています。

Q. CT、MRIとの違いは？

A. CT、MRIは写真撮影のように動くと画像がぶれるため冠動脈を撮影するには、心臓の動きを止める必要があります。実際に止めるわけにはいかないので、心臓が最も拡張して止まる瞬間の画像を集めてコンピューター処理により画像を再構成しています。冠動脈造影検査は動画で撮影するため動いたままで冠動脈の小さい枝まで詳細に観察できます。近年はCTでも詳細な観察ができるようになってきましたが、冠動脈造影検査にとって代わるものではありません。CT、MRIで冠動脈に狭窄が疑われれば、治療方針の決定のために冠動脈造影検査を行います。

Q. 検査方法を教えてください

A. 2泊3日の入院検査として行っています。手首の動脈からカテーテルと呼ばれる細いチューブを冠動脈の入口まで挿入します。冠動脈に造影剤を注入して1回数秒の動画を上下左右に向きと角度を変えて10回程度撮影します。手首からの検査ではカテーテル挿入のために動脈に針を刺すときに偶発症を生じにくく、検査終了後に安静にする必要もないため、心身への負担を軽減できます。

Q. 検査時間はどれくらいかかりますか？

A. カテーテルを血管内に挿入している時間は10分程度ですが、挿入までの準備と検査後の処置時間も含めて30分程度です。

Q. 痛みはありますか？

A. 始めに手首を局所麻酔するときにチクツとする痛みがありますが、カテーテルを血管内に挿入している検査中に痛みを感じることはありません。

Q. 治療もできますか？

A. 経皮的冠動脈形成術（ステント留置術）は冠動脈造影検査を利用した治療法です。検査に引き続いて治療を行うこともできます。外科的な冠動脈バイパス手術が必要な場合は心臓血管外科での手術となります。

お問い合わせ先 内科受付 078-672-2619 (外線)
22619 (内線)

科紹介シリーズ

ME機器管理室



ME機器管理室では「医療機器のスペシャリスト」を目標に、現在室長と7名の臨床工学技士が年々複雑・高度化する医療機器を安全安心に運用する為に保守管理業務や、様々な臨床業務にも積極的に携わりチーム医療へ参加しています。

業務内容

- 血液浄化業務

透析室はベッド数15床で臨床工学技士は、シャント穿刺、患者監視装置の操作・保守点検はもとより水質管理等や医師、看護師と連携し、患者様への治療に積極的に参加しています。また、各種アフェレシス(血液浄化療法)への対応も行っています。



- ME機器管理業務

シリンジ・輸液ポンプ・持続吸引器等を中央管理し貸出、返却、使用後点検、定期点検、一年点検、不具合時の対応を行っています。人工呼吸器については使用前、使用中点検、回路交換を行っています。

- 心臓カテーテル業務

生体情報モニター装置・IVAS・IABPなどの操作を担当し、冠動脈造影や冠動脈インターベンション(心臓カテーテル治療)を始めとしたあらゆる検査、治療がスムーズに行えるように技術支援を行っています。



- 手術室業務

麻酔器・その他医療機器などの手術前点検や保守、毎日様々な手術に対して工学的な知識を駆使して技術支援を行っています。

- 内視鏡業務

内視鏡の検査・治療を安全に行うため内視鏡カメラおよび周辺機器の使用前点検や検査・治療中は医師に処置具等の受け渡しなど介助業務にも携わっています。



臨床心理士コラム♪

メンタルヘルスワンポイントアドバイス

「夏の記憶とメンタルヘルス」

残暑がまだまだ続く季節ですが、みなさん調子はいかがでしょう？
夏休みやお盆休みはどのように過ごされましたか？
さて、みなさんにとって夏の思い出と言うと、どんな事が思い浮かぶでしょう？
人それぞれ色々な記憶が思い出されるでしょう。

心理学における記憶の研究は数多くありますが、その中に、最後の出来事の印象が記憶に残りやすく、後の判断に大きな影響を与える「親近効果」と呼ばれるものがあります。



例えば、学生の頃の夏休みの思い出として、楽しい時間を過ごしたけれど、宿題をずっとためこんでいたため、休みの最後の数日間は夜遅くまで宿題に追われ焦ったという場合、その人の中で「夏休みの思い出＝大変だった」、と印象づけられやすくなるということです。

実際、夏休みの大部分の時間はのびのびと楽しい時間を過ごし、焦って大変だった時間はほんの一部分にすぎないのですが、最後の記憶が私たちの印象に残りやすい、ということですね。

これは一日の印象においても同様のことが言えます。比較的穏やかな一日であっても、退社前や帰り道で嫌な思いをすると、あたかもその日一日が悪い状態だったかのように印象付けられてしまいます。

さらに、床に就いてまたその事を思い出したりすれば、寝付きが悪くなったり途中で目が覚めたりといった睡眠に支障を与えることにもつながりかねません。
ですから、一日の終わり、特に就寝前はできるだけ、その日一日のうれしかったこと、楽しかったこと、出来て良かったことなどを思い出して、眠りにつくように意識しましょう。ちょっとしたことのようにですが、意識するかしないかで、その習慣の積み重ねが、5年後10年後のみなさんのメンタル面の健康維持につながっていくといっても過言ではありません。メンタルヘルスは、今や四季を通して、注意が必要になってきています。良いことは習慣にすることで、みなさんのセルフケアの力を育てて頂きたいと思います。

臨床心理士 矢野 知子



9月23日（土）祝日は半日開院日となります。
診療科目につきましては裏面診療予定表をご覧ください。